

# IV

## 新たなまちづくりを 進める基本的考え方

# ◆ 新たなまちづくりを進める基本的考え方

本市の概況と取り巻く社会動向から、新たなまちづくりを進めていくため、3つの基本的考え方を示します。

考え方1	地域特性を活かし、人口減少に対応した豊かな暮らしの実現
考え方2	多彩な個性を育み、磨き、果敢な挑戦で新たな価値の創出
考え方3	まちへの誇りと愛着を育み、持続可能な地域社会の形成

## 考え方1：地域特性を活かし、人口減少に対応した豊かな暮らしの実現

本市においても本格的な人口減少・少子高齢化が進行し、さらなる子育て支援や健康づくり活動の促進、地域コミュニティの維持向上などがまちづくりに求められるとともに、限られた財源のなか、暮らしを支える社会インフラや公共施設などの老朽化への対応が必要となります。

こうした状況を踏まえ、特に市域が長く広大な面積を有する本市では、これまで以上に効率的で利便性を兼ね備えたコンパクトなまちづくりが必要となります。一方、本市は4つの自治区で形成しており、各自治区で自然環境や地域資源、産業や拠点性も多様であり、こうした点を考慮した効率的なまちづくりが必要となります。

コンパクトなまちづくりを進めることに加えて、そこでの豊かな暮らし方が大切となります。そのため、子育てがしやすく、育児や介護をしながらでも働くことができる環境整備や交通弱者が歩いて暮らすことのできる生活圏の利便性向上、若い世代の雇用の創出なども重要です。また、生涯にわたり健康で生きがいを持って地域社会で活躍できる環境も望まれます。さらに、支えあう暮らしのなかで、さまざまなものをシェア（共有）する環境を活用しながら、誰もが心豊かに住み続けていくことができるまちづくりが求められています。

このように、「地域特性を活かし、人口減少に対応した豊かな暮らしを実現していく」ことを、新たなまちづくりの基本的考え方の一つとします。





## 考え方2：多彩な個性を育み、磨き、果敢な挑戦で新たな価値の創出

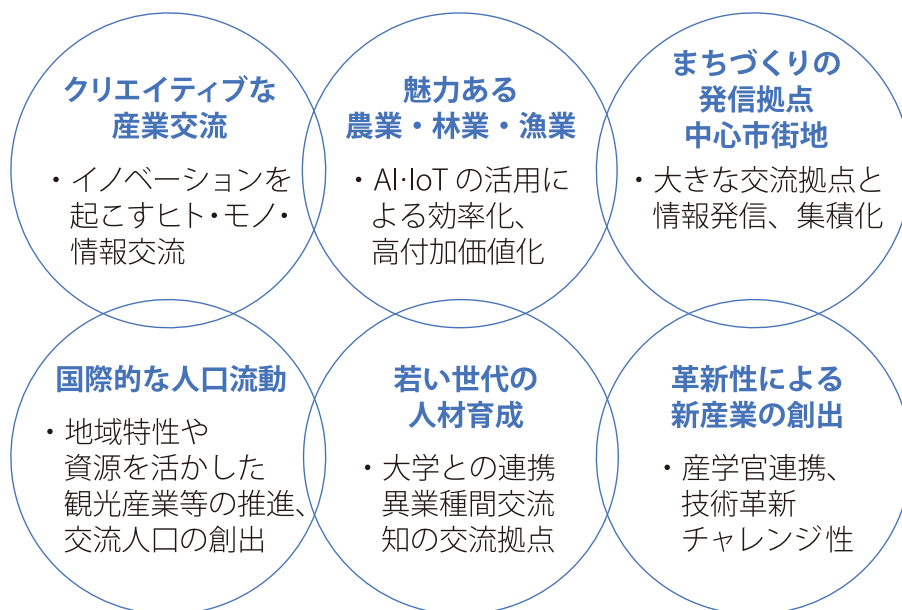
本市は、魅力ある農林水産業を基幹産業として、商工業を下支えする産業基盤がつけられています。人口減少の進行や国際化の進展に伴い、より競争力の高い強固な産業基盤をつくっていくことが、新しいまちづくりに必要な要素となっています。そのため、飛躍的に進歩している先進技術などを活用しながら、魅力ある地域産業の発展に向けた研究開発を産学官連携で進めていくことが求められています。

本市の中心市街地は、オホーツク圏域における経済活動や賑わいの中心的役割を担っていますが、人口減少などにより、活力の低下が懸念されています。このため、市民や来訪者にとってまちの顔となるよう、中心市街地に魅力と賑わいを取り戻すことが求められています。新たな北見駅前広場や平成32年度(2020年度)に完成予定の市役所新庁舎の整備などをきっかけに創出される駅前地区の賑わいの促進や商店街等が実施する各種イベントとの相乗効果により、中心市街地の活性化を推進し、求心力のある中心市街地として、人や情報などのあらゆるものを結び付け、交流とイノベーションを起こすまちづくりが必要です。

それに伴い、多様な交流をきっかけに新しい価値観が生まれる可能性があります。交流の場の創出や産学官連携を図りながら、創造性豊かな人材を育てていくことにより、創造的活動や産業交流の発着点となることへつながります。

また、本市には、中核都市としての都市機能や高度医療、地域資源を活かした産業、学術研究、カーリングをはじめとするスポーツや歴史文化など、まちづくりに活かしていくべき個性が多彩に存在します。こうした多彩な個性をつなぎ合わせ、連携し、情報発信することで、世界の人々を惹きつける魅力が創造され、新たな価値を生む可能性があります。

このように、「多彩な個性を育み、磨き、果敢な挑戦で新たな価値を創出していく」ことを、新たなまちづくりの基本的考え方の一つとします。



### 考え方3：まちへの誇りと愛着を育み、持続可能な地域社会の形成

居住空間と自然環境の近接性は、市民だけでなく来訪者にとっても魅力のひとつです。また、地域に第1次産業が強固に根付いていることに裏打ちされる食、景観や歴史文化などは、ふるさとへの誇りと愛着を育みます。こうした点を活かし、食や歴史文化の伝承などを進めることや第1次産業の体験交流を促進することで、地域への愛着を高めていくことが大切です。また、子どもを含めた多世代で地域資源を活かした体験交流などに取り組むことで、地域と人のつながりを強くし、愛郷心が生まれ、生涯にわたり住み続けたいくなるまちへと発展していくことにつながります。このように地域資源を活かした産業や歴史文化など、本市の持つ強みや地域ごとの個性を磨きながら、子どもたちをはじめとした市民のまちへの誇りと愛着を育むまちづくりを進めていくことが重要です。

一方で、地域の課題は多様化・複雑化し、ひとつの主体のみでは対応することが困難な状況もあります。多様化・複雑化する課題への対応は、市民や団体、企業、行政が力を合わせ協働で取り組んでいく必要があります。限られた財源のなかで、効率的で効果的な行政運営を進め、持続可能なまちづくりが求められています。

このように、「まちへの誇りと愛着を育み、持続可能な地域社会を形成していく」ことを、新たなまちづくりの基本的考え方の一つとします。

